
松本市総合計画策定に係る 松本市基本構想2030市民会議 第2回の意見整理

1. 都市計画	p
2. 経済振興	p
3. 教育厚生	p
4. 3部会の取りまとめ	p
5. 共通するキーワードの抽出	p

2020年9月

1. 都市計画

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ●暮らしの中に溶け込んだアルプスの風景 <ul style="list-style-type: none"> 朝のすがすがしさの中の北アルプスがきれい。凜とした空気感 朝、農作業をしているときの北アルプスの美しさ 山がきれいに見える。移住して10年経つが未だに感動し、幸せを感じる。町から山が見える景色は感動する まちなかや、身近なところに自然がある ●暮らしやすい気候 <ul style="list-style-type: none"> 松本は晴天率が高く、雪や雨も少ない。この強みを健康づくり、太陽光発電などエネルギーに活用すべき。 ●水資源を中心に自然資源が豊富 <ul style="list-style-type: none"> 水資源が豊富。きれいな水 人間は水を見ているときポジティブな感情になる 一部集落では水が自給できる。電気も自給できる 森林資源などバイオマスも豊富 ●魅力的・さわやかな朝 <ul style="list-style-type: none"> 松本の朝はすがすがしく、さわやか。鳥のさえずりも聞こえる。「朝」を資源として捉えるべき 松本の朝にはポテンシャルがある ●松本は訪れたい魅力が多いまち <ul style="list-style-type: none"> 松本は高水準のリゾート都市になり得るポテンシャルがある。人の物語性も含めて、松本の特徴、良さを突き詰めるとそこに共感する人が来るようになる 冬は北アルプスが一番きれいな時期。凜とした空気感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が自然環境に価値を感じていない <ul style="list-style-type: none"> 地元の人がアルプスに対し価値を感じてない ●自然環境や緑をないがしろにしている <ul style="list-style-type: none"> 産廃処理場などを自然豊かな郊外に設置するなど、地元の人には、松本にとっての本当に大事な自然環境、緑をないがしろにしている。自然豊かな場所に産廃処理場などがあると松本のイメージを悪く感じる 自然の恵みにフリーライドしている ●産業廃棄物処理場への市民意識を変える <ul style="list-style-type: none"> 臭いものに蓋をするのはよくない。産廃はそもそも私たちの暮らしから排出されているものであり、市民は商品がどのように作られ、処分されるか知るべき ●森林資源がまちづくりに活用されていない <ul style="list-style-type: none"> 松枯れなどが起きている 豊富にある森林資源をまちづくりに活かし切れていない ●市街地の緑を維持できていない <ul style="list-style-type: none"> 市街地において緑を維持するのが大変であるため（水やりや落ち葉の処理など）コンクリート化が進んでしまう 緑があることと同時に土がある空間が重要。大地の大気圧が抜ける大地の呼吸の場として土中環境を意識した緑化が大切 ●足下を見るとまちなかにはゴミが落ちている <ul style="list-style-type: none"> 水路にペットボトルが流れてくる。たばこの吸い殻が捨ててある。足下のモラルの低さを感じる。改善が必要である。 ●日本一きれいな街にする <ul style="list-style-type: none"> 景色景観だけではなく市民全員がきれいな街作りを真剣に目指す。小さな行動×市民数で可能性を模索する機会が必要 ●朝の魅力を活かし切れていない <ul style="list-style-type: none"> 朝から営業している店がない 市民が松本の朝が素晴らしいことに気がついていない（他の地域と松本の朝は違う） 	<p style="text-align: center;">重要キーワード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自然環境】 市民が自然の恵み・恩恵に敬意を表するとともに、まちづくりに活用していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本の強みである自然に対する敬意と保全 ・森林資源のまちづくりへの活用 ・自然資源の循環を踏まえた都市計画 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●市民が自然の恵み・恩恵を実感し、大切にす <ul style="list-style-type: none"> 松本周辺の自然の恩恵を実感し、保全と活用を考える きれいなまちづくりに向けた市民行動の促進 ●自然の恵みを生かした経済活動の創出（エネルギーなどの自給自足など） <ul style="list-style-type: none"> メガソーラー、バイオマス、小水力発電の取組み 晴天率の高さを活かした健康づくり 湧水など水のセラピー ●森林資源を活かしたまちづくり <ul style="list-style-type: none"> 森林資源の市街地での活用 市街地の緑化、土がある空間づくり ●朝や冬の魅力を活かした観光・商業振興

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
都市環境	<p>◎中心市街地</p> <p>●まちがお城を中心にコンパクトにまとまっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかは歩ける範囲に文化施設や飲食店など、質の高いモノが集積している ・お城と駅との距離がほどよく、回遊できる町である。お城が町の中に溶け込んでいる。ヨーロッパの旧市街・新市街と同じ趣きがある ・電線が地中化している通りはまちがきれいである <p>●水路は松本の特徴であり資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本は湧水が豊富。湧水は地域の宝。きれいな湧水が未来永劫、湧き続けるために地下の環境を踏まえたインフラのあり方の検討が必要 <p>●自然豊かな中で都市生活がおくれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然があり、環境がよく、その上で都市生活もできることが松本の強み ・市街地のそばに浅間温泉があり、そのすぐそばに森林がある。森の香りがする ・文化的なもの、都市的要素がある中で暮らしていける。そこから自転車ですぐ移動すれば自然の中に帰れる。自然との距離感がよい <p>◎郊外</p> <p>●市街地と郊外とで大きな違いがある</p>	<p>◎中心市街地</p> <p>●松本城は松本市民の心のよりどころだったが、それが薄れつつある（新しいよりどころが必要）</p> <p>●松本独自の都市景観が悪化している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前にはマンションが増え、景観が悪化している <p>●まちなかで休める場所や緑が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を歩いて回遊する際に休める場所がない ・中心市街地で自然を感じられない ・市民、観光客共に集える中心市街地構想が必要 <p>●空き家が増加、専門店も減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地、郊外ともに空き家が増加傾向 ・小さな専門店・商店が減ってきている ・歩いて買い物に行ける店がなくなる ・空き家、小さな商店がなくなると「更地」になり、コインパーキングとなる。まちの歴史・文化の積層が破壊される（松本の街並みが画一的な町並みになってしまう） <p>●お堀の水質浄化に向けた根本的解決が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お堀の水質浄化は、しゅんせつをするだけでは根本的な解決にならない。コンクリ・アスファルトで固められた大地は、地下の環境が酸欠を起し浄化能力を落とす <p>●市街化調整区域など都市計画の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域は本来優良農地を守るためであるが、今では農地を引き継いだ者以外が家を建てられず、高齢化率が著しく高くなり、農業の担い手が減少している。現状にあった都市計画への見直しが必要 <p>●100年後評価される街並みづくり、ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在はきれいな街並みが市街地には存在しているが、果たして100年後に評価される街であるのか。若者の起業を支援するためにも、松本城や開智学校がある街に相応しいハード面での整備が重要 <p>◎郊外</p> <p>●宅地開発が進み、農地が減っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近岡田の田んぼがなくなって宅地が増えている。市街化調整区域の開発がちぐはぐしている。 <p>●中心市街地と郊外のサービス格差</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郊外では車がないと不便で暮らせない。郊外居住者は「おいていかれている」と感じているかもしれない 	<p>重要キーワード</p> <p>【都市環境】 松本の文化・歴史の積層を活かしたまちの再生</p> <p>●松本らしい都市像の設定とそれに即した地域経済の構築</p> <p>●松本らしい個性・歴史を活かした中心市街地の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本の個性、歴史を感じられる街並み、路地の保全 ・市街地における自然環境の確保（飲食店の前で野菜を作って食べられるなど、自然を感じられるとよい） ・目的/ターゲットを明確に定めた空き家活用 ・地下水の保全に向けたインフラの整備 ・松本城や開智学校がある街に相応しいハード整備 <p>●各地域の個性を活かしたゾーニングおよび都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の特徴の整理と役割設定

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
経済振興に対する考え方・方針	<ul style="list-style-type: none"> ●松本はほどほど都会、ほどほど田舎 何かに突出した特化型ではなく、住民が幸せを感じられることが重要 ・松本は、ほどほど都会、ほどほど田舎で、文化薫る商都である。これからの未来に向けて一歩足が出にくい地域性がある。 ・デジタル化、環境など何を一番に守るのがでにくい。ほどほどにいろいろあるから。住民が幸せに感じているなら、突出した産業でなくてもいいのではないか。 ●安心と安全、平和がベースにある ・安心と安全のある街でありたい。 ・地域はもちろん、日本国内がいとわず、平和を大切にしていきたい。いろいろ考え直さなければいけない世の中になっているので、一人ひとりが考え、何に対してYes、何に対してNoと言うかはっきりさせるべき。安心、安全をベースに教育の内容も考えていくべき。 		
農林業	<ul style="list-style-type: none"> ●長野県の伝統野菜は77種類あり、（基準は異なるものの）京野菜や江戸野菜、以上に豊富にある 	<ul style="list-style-type: none"> ●いい野菜があるが、うまくブランディングできていない ・鎌倉野菜はブランドづくりがうまいが、松本はうまくない。 ・いいものを安く売りすぎている。そこからの脱却が必要。 ・農産品のブランド化を進めるべき。 ●農業従事者の人材の不足が予想される ・農業数の減少が予想されている。需要量に対して供給量が減少してしまうことへの懸念。 ●森林資源（木材）が活用できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業のIT化の積極的推進 ・オランダの農産物輸出額は世界で2位を占めており、その理由はAIやITで生産性を上げているためである。波田でも、例えば放置されているスイカをITで管理することによって、生産性を高められる。 ・現在ある遊休地をAIやITの導入によって活用していく。 ●農産物の高付加価値化 ・農産品の6次化によって付加価値を生み出す。 ・今後は大量生産の時代ではない。既存の価値に加え、プラスαの価値を生み出していく
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギー等を生み出す資源が豊富 ・松本の環境を活かし、再生エネルギーへの取り組みを伸ばし、エネルギーの地産地消を進めていける ・具体的に、浅間温泉の廃熱を使ったイチゴ栽培や、山岳都市を活かした地熱発電への取り組み。 ・梓川ダムの有効活用。 ・日照率が高いことを生かした太陽光発電。家庭でのソーラーパネル。 ・クリーンエネルギー分野では日本一を目指せる 	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーを生み出せる資源はあるが、活用できていない ●再生可能エネルギーを生み出す場所が課題 ・再生可能エネルギーを生むには莫大な土地が必要になり、どこかの地域が犠牲になってしまう。 ●低炭素、再生可能エネルギーを促進する支援制度がない ・低炭素、再生可能エネルギーのための制度資金がない ●エネルギーの取組方針を打ち出す必要がある ・脱炭素社会に至るまでの家庭、技術、役割を考える必要がある ・世界に向けて発信していくのであれば、方針が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギーの自給自足に向けた資源活用 1) 方針を明確にする 2) 課題を検討した上での議論が必要 ・自然の豊かさを利用し、地産地消を進めていくべきとの意見が出ているが、一方で、どこで再生可能エネルギーを創り出すかは今後の課題として出ている。 ・その中でも、まずは市役所が率先してエネルギーの自給自足モデルを構築してはどうかという意見もある。
商業環境	<ul style="list-style-type: none"> ●強い経済圏を構築している ●競争が激化する中、市街地の個店は一定程度維持されている ・松本の商店街は強い。郊外における、ナショナルチェーン、市街地におけるショッピングモールの建設など、厳しい競争にさらされたが何とかこなしている。 ●リピーターやファンに支えられた個店が多い ●お店の新陳代謝が早い ・町中に新しいお店が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ対策でテイクアウトを開始とともに、環境に悪影響 ・テイクアウトを始めたが、ゴミの問題が発生 ・パッケージの在庫も抱えるようになってしまった 	

3. 教育厚生

	魅力・強み・成果	課題	今後の方向性
幼少期の教育・保育 小中学校教育	<p>●保育園の保育士人数の手厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> すでに厚労省の基準よりも松本市の保育士配置基準は高い 	<p>●子育て家庭の孤立化</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て中の親が孤立してしまう状況が発生している。 子育ての先輩から助言を受けやすいなど、有機的な関係が希薄になっている <p>●子ども同士、地域での子育てが失われつつある</p> <ul style="list-style-type: none"> 元々、集団で子育てが行われていた。少し年上の子どもがいてそれをみて子どもが育っていた。その社会が崩れている。本来であれば地域社会全体で子育てをすべき。現状、地域の子育て環境は自助、共助が中心。自助、共助で補えないときに、公助になる。協働養育的な考え方を導入していくべき <p>●保育現場における大人の立ち振る舞いが子どもに与える影響を考慮すべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がい等で、保育現場が受け入れられない場合がある。親から加配をつけてほしいとの声がある。そうすると大人がその子どもに関わる姿を見て、子どもたちが「あの子は違う」と思ってしまう。尊重しあいながら共に学ぶ教育が必要 <p>●保育士の就労環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士不足は長年の課題 保育士のなり手不足問題は、原因の特定からしっかり取り組む必要がある。 保育現場の管理職の質向上、働き方（長時間労働、低賃金、出勤時間など）等の課題を整理し、取り組む必要がある <p>●外国由来の住民が妊娠・出産・子育てにおいて孤立しやすい状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国由来の住民が妊娠・出産・子育てで苦労している。孤立しやすい状況に社会がある。 <p>●非認知的能力、生きる力を高める教育が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力は必要であるが、学力ではない教育、生きていく力が必要 インプット重視型の教育ではなく、非認知能力を育む教育が必要。非認知能力は3歳～6歳頃伸びると言われており、幼少期から受け身姿勢の改善が必要。家庭教育も重要になる <p>●幼少期における教育環境、保護者のケア環境の整備が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育は早い時期ほど大事であるが、保育の環境が見過ごされがちである。ひとりひとりに合わせた保育、教育が大事であるが、公立の施設では今でも管理する側の都合で現場が動いている。また同じ理由から母親のケアが必要。そういうところに公的な支援が行き届いてない <p>●家庭に対するアタッチメントの必要性の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期ケアには自己肯定感を高める必要がある。幼少期にしっかりアタッチメントが築けていると自己肯定感が高くなる。幼少期のアタッチメントをしっかり築いていくことが重要であり、家庭にそのことを知ってもらう必要がある <p>●「主体性」を高める保育・初等教育の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の保育教育では「doing」（～をこなさい）が多い。フィンランドは「being」（「あるべき」を自分で考える）タイプの保育教育が主流。そのため、子どもの主体性が育まれている 小学校教育の場においても、子どもたちが主役で担任が少し引いて、子どもたち同士で課題解決を進めるスタイルであるべき。 大人も主体性がなく「言われたことはやる」という受け身の人が多い。受け身になる背景は、子どもの頃から受け身の姿勢が影響している 受験中心の教育では、受け身になる。受け身姿勢の教育を続けている限り、起業家などは生まれてこない 	<p>重要キーワード</p> <p>【幼少期の教育・保育 小中学校教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域ぐるみの子育て・教育の強化 非認知的能力の向上、自己肯定感の醸成に向けた教育機会の創出 子どもの個性を伸ばし、多様性を受け入れる環境の創出 <p>●協働養育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助・共助・公助の一体的な（協働による）子育ての実施 <p>●家庭教育に対する啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> アタッチメントや非認知的能力の育成に関する家庭への啓発 <p>●保育士のさらなる配置、労働環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育士のさらなる配置 保育士の職場環境の改善に向けた調査・研究、検討 <p>●子どもたちの個性・主体性、寛容性・多様性への受容力を伸ばす教育の実施及びそのための教員の負荷低減</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼少期からのインクルーシブ教育 小中学校における子どもたちの主体性を育む教育の実施 小学校での一人担任制から複数担任制への変更の検討 教員1人あたりが受け持つ児童数の見直し 1クラス定員を半分にする 障がい児も含め、多様なこどもたちが助け合い、学び、関わりあう濃度を高める教育を目指す <p>●松本の特性を生かした教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 松本だからできる教育のひとつが豊かな自然環境を最大限に生かした教育である。 知識偏重でないカリキュラムの作成。創造性豊かな生きる力も強いこどもたちが育つカリキュラムの作成